

J R 東海労
大二運分会

交差点

No.363
2013年5月3日
責任者：高原弘幸
発行：教宣部

営利優先・運行優先から安全第一へ！

JR福知山線脱線事故から8年！ 「責任追及」から「原因究明」へ 強権的労務管理を許すな！

4月25日、107名の命を奪い、562名の負傷者を出したJR福知山線脱線事故から8年を迎えました。

私たちJR東海労大二運分会は、JR西労、東労組、貨物労組の仲間450人と共に事故現場に赴き、追悼と慰霊、そして「営利優先・運行優先」から「安全第一」へ企業体質の創造を誓い、発生時刻の9時18分に黙祷を行い、献花を行ってきました。

その後、JR西労主催の『事故の経営責任追及！「営利優先・運行第一・社員への責任追及・労使癒着」の不安全な企業体質を一新する集会』に参加し、ご遺族の方もご臨席頂き490名が結集し開催されました。

集会ではJR西日本の歴代社長の刑事責任を追及している検察審査会の動向、事故当時の航空・鉄道事故調査委員会の「最終報告書」における「日勤教育」や「懲戒処分」など「懲罰的運転士管理方法」が事故原因であったと公表し、社会問題化しましたが、現在においてもミスした運転士が本人の意に反して他職へ配転されるなど「責任追及・懲罰的な社員管理」が横行し、御用組合のJR西労組役員が会社を擁護するという旧態依然の風土が顕在していることなどが明らかにされました。

また、ご遺族からは、「事故を風化させないこと、営利優先で命を大切にしない企業体質の一新に向け諦めずに頑張ってください」とお言葉を戴き、参加者一同は事故を風化させず、企業体質の一新を誓いました。

JR東海においても、「3・11東日本大震災」津波警報発令時での新幹線運行、台風直撃予想時の通常運行等々、「営利優先・運行優先」の企業体質はJR西日本以上です。

さらに、社員管理においては出勤遅延未遂で社員の命を奪うことに象徴されるような強権的な社員管理が横行しています。

会社経営陣の「営利優先」は労働組合が労働組合として機能しなくなると表面化してきます。

私たちは、それぞれの職場で「命」を尊び、「安全第一の企業体質の確立」「責任追及から原因究」の安全哲学の確立に向け奮闘することが犠牲者に報いることになると考えます。

これからも事故を風化させず、労働組合の真価を発揮させていきます。